

を着実に継続して収集・保存し、西東京市の歴史を後世に伝えるよう努めます。

西東京市後期基本計画では、図書館の主要事業の一つとして「歴史的資料の修復及び保存・活用」が位置づけられました。この一環として平成二十一年度は寛文十年田無村御検地帳の修復に取り組みます。修復完了後、市民の皆様への公開を行います。併せて、その解説や研究など、地域の人材を活かしたボランティアの活用と場の提供に努めます。

資料整備については、図書以外の資料の地図、写真、ポスター、ちらしなどの整備、データベース化も進め、西東京市に関する新聞記事と同じく公開を目指します。

サービスについては、Webレファレンス開始に向けて、皆様からのご質問に迅速・的確にお答えできるよう努めるとともに、西原郷土資料室や関係機関との連携事業を検討してサービスの拡大を進めます。

ハンディキャップ・サービス

ハンディキャップ・サービスは、図書館利用に障害のある方の図書館利用を応援します。

通常の活字のままでは情報を得られない方に対しては、活字のバリアフリー化を推進します。デイジー図書(DAISY=Digital Accessible Information System)は、カセ

ットテープに替わるだけでなく、学習障害などがある人の識字認識にも効果をあげると期待されています。国際統一規格での提供を行い、そのために、すぐれた編集技術者の養成と録音機器の整備を進めます。また、音訳者を確保するため、養成講座を引き続き実施していきます。

図書館に来ることが困難な方には、ボランティアによる宅配サービスを行います。ボランティアを活用できる作業はほかにもあり、利用者ニーズの調査と併せて検討していきます。

二十一年度は、まだ図書館を利用していない方へのPRを行うため、関係部署との連携により利用者の把握とサービスの拡大を行います。音訳者の養成講座は中級講座を実施し、下半期には、『広報西東京』の製作に研修生として参加していただきます。

20年度事業報告

自動貸出機の利用が増えています

平成二十年度は「図書館事業の見直し」の第一次計画を「モノの改革」と位置づけて、図書館ICタグ資料管理システムを導入しました。

五月から資料へのICタグ貼付作業を開始し、特別整理休館中に図書館管理システムの入替えとICタグへのデータ入力を行いました。導入後は、開架書架の資料をすべ

て自動貸出機で借り出せるようになりました。自動貸出機を利用した市民からは、「カウンターに並ばなくていいので便利だ」「自分の借りる資料をだれにも知られることがないので、プライバシーが保護される」などの声があります。自動貸出機の稼働率は、開始直後の六月は全館平均二三四%でしたが、二月には四四・九%まで伸びました。

今後わかりやすい表示や利用案内に取り組み、利用の促進を図っていきます。

さまざまな利用がされています 保谷駅前図書館

保谷駅前図書館には、下保谷図書館にはなかったおはなしコーナーがあり、おはなし会を行うことができます。毎月第二・第四金曜日は幼児、第一・第三週の週末は五歳から九歳位の児童を対象としています。YAコーナーも新たに設け、中高生の利用が伸びました。

勤労世代向けにはビジネス資料コーナーを設け、「仕事」に関する図書や雑誌の収集・提供に力を入れています。三月には講演会を行いました。市の図書館で初めての学習室は、学生、社会人、高齢者など幅広い世代の方々に利用されています。

貸出冊数は、下保谷図書館時代と比べると一・六倍に増えています。また、保谷駅の南側に移転したので、保

谷町・富士町・中町・東町にお住まいの方の新規登録が増えました。北町や下保谷在住の方の新たな利用も増えています。駅に直結している利便性に加え、祝日開館及び平日午後八時までの夜間開館により利用時間を延長した結果と考えられます。

雑誌に関する満足度調査を行いました

昨年の十二月一日から二十八日にかけて、新町分室を除く六館で来館者を対象に雑誌に関する満足度調査を行いました。調査票は六館合わせて五〇〇部配布し、二九九名の方から回答を得ることができました。回収率は四七・八%でした。全体満足度の平均は五段階評価で三・七点、分野別の満足度の平均は、おおむね三点から三・五点の間でした。詳細については、館内に掲示してある調査結果をご覧ください。調査は今後も実施し、収集計画に生かしていく予定です。



利用されています。自動貸出機